

アメリカ・カリフォルニア州

ガーデナ市

姉妹都市締結 50 周年 議員 2 名を派遣



平成 24 年 7 月 9 日から 14 日までの 6 日間、大久保博市長を団長とする市川市公式代表団が、アメリカ合衆国・カリフォルニア州にあるガーデナ市を訪問しました。

議会からは、代表団の一員として、加藤武央議長、かつまた竜大議員を派遣しました。

本市とガーデナ市は、昭和 37(1962) 年 11 月 6 日に姉妹都市を締結し、以来、青少年交流、文化・スポーツ交流などを中心に交流を重ねてきました。本年度姉妹都市締結 50 周年を迎えます。

今回の訪問では、50 周年記念式典をはじめ、グリーンテクノロジー（再生可能エネルギー等の技術）や環境に配慮した L E E D 住宅を視察するなど、さらなる友好親善を深めました。

議会改革検討協議会

議会改革検討協議会は、市議会の改革全般について議論するため、平成 24 年 3 月に設置されました。

これまでの議論の中で、各会派から申し入れがなされた検討事項を整理し、「市民に開かれた議会」「効果的・効率的な議会運営」「議会の政策立案機能等の強化」などを、優先順位をつけて具体的に検討することとしました。

まず「市民に開かれた議会」に関する項目として、インターネットによる議会中継などを議題としています。

また、「e モニ」(e- モニター制度)を利用したアンケートを実施中です。

議会改革検討協議会の委員構成

会派「新生市川」が 6 月 12 日に結成されたことに伴い、6 月 19 日付けで議会改革検討協議会の委員構成に変更があり、協議会の委員構成は以下のとおりとなりました。

(敬称略)

座 長	金子 正	副座長	中山 幸紀
委 員			
石原よしのり	中村 義雄	石崎ひでゆき	
青山 博一	桜井 雅人	宮本 均	
荒木 詩郎	稲葉 健二	湯浅 止子	
宮田かつみ	鈴木 啓一		

(平成 24 年 6 月 19 日現在)

通学路の安全対策 (信篤小学校前)



道 路 交 通

認定道路内の民有地

通学路の安全対策

掘削時に問題 市の認識と対応は
地権者を調べ同意得よう努める
小泉文人議員(新生市川)
市川市の認定道路内に民間の土地があるが、数や面積について把握されていない。また、このような土地

は、掘削するときに所有者の許可が必要となり、許可が得られない場合にはガス管や上下水道管の敷設が難しいのではないかと考える。この問題についての市の認識と対応を問う。

答 認定道路内に民有地があることは認識しているが、全てを把握することは難しい。現状を調査し、状況を把握して次のステップに進むよう担当部署に指示していく。また、掘削を行う際は、地権者を調べて同意を得るようできる限り努力し、了解を得ながら進めている。

掘越 優議員(公明党)
最近、子どもが被害者となる痛ましい事故が発生している。市は、通学路の点検調査を実施したと聞けが、

危険箇所の整備や周知をどう行うのか。また、通学時間帯の交通誘導員の導入や、全通学路のスクールゾーン指定ができないか。その他、登下校時の安全指導の取り組みと事故防止の推進に対する市の考えを問う。

子どもの命を守る施策 どう取り組む
施設整備や啓発など総合的に推進

答 危険箇所について、防護柵、注意看板、路面標示等を整備し、学校だよりやメール配信で周知している。今後も、交通安全施設やスクールゾーンなど環境整備に加え、交通安全教室の実施等、子どもの命を守る施策を総合的に推進する。

道 路 交 通

高谷川の架橋新設

交通事故対策

佐藤幸則議員(自由民主党)
田尻・高谷地区の江戸川堤防は広域避難場所指定されたにもかかわらず、堤防敷に渡る架橋の設置が見通しを問う。

答 平成 24 年 2 月に、市の関係部署が、要望のある高谷川の架橋について現地視察を実施し、更に高谷川の管理者である葛南土木事務所と現在架けられている橋の管理状況などを確認している。今後は架橋新設について、再度、関係部署と協議を行い架橋建設の可能性を検討していく。

広域避難場所に渡る橋が必要
関係機関と架橋新設の可能性を検討

答 平成 24 年 2 月に、市の関係部署が、要望のある高谷川の架橋について現地視察を実施し、更に高谷川の管理者である葛南土木事務所と現在架けられている橋の管理状況などを確認している。今後は架橋新設について、再度、関係部署と協議を行い架橋建設の可能性を検討していく。

石原よしのり議員(民主・連合)
県道市川松戸線真間山下付近では大事故が頻発している。この付近には学校施設や国府台スポーツセンター市はどう対応しているのか。

答 真間山下付近での交通事故の発生状況は、平成 23 年 4 月から 24 年 5 月末までに人身事故 4 件、物損事故 7 件である。これまで市は、現地調査を実施した上で、赤色回転灯やカーブミラーを設置し、県に交通安全施設の更なる充実を要望したところ、23 年度にガードレール等が改善された。

真間山下で事故多発 市の対応は
道路管理者に安全施設の充実を要望

答 真間山下付近での交通事故の発生状況は、平成 23 年 4 月から 24 年 5 月末までに人身事故 4 件、物損事故 7 件である。これまで市は、現地調査を実施した上で、赤色回転灯やカーブミラーを設置し、県に交通安全施設の更なる充実を要望したところ、23 年度にガードレール等が改善された。